

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 99
令和元年

令和元年度 関西大会開催案内

発行 日本庭園学会 (会長 佐々木邦博)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部
造園科学科 庭園文化研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/asjg/>

令和元年度 日本庭園学会関西大会開催案内 日本庭園学会関西支部事務局

令和元年度の関西大会は、令和元年 11 月 2 日 (土)、3 日 (日) の 2 日間にわたって、山口県山口市内を会場として行います。1 日目の現地検討会では、文化財庭園として保存修理等が行われた最近の事例として常栄寺庭園と常德寺庭園を見学します。

2 日目は研究発表会に引き続き、史跡整備が行われた大内氏館跡庭園、国登録文化財山水園庭園、凌雲寺跡の見学を行います。

研究発表会会場となる山口市菜香亭は、長州藩の膳部職であった齊藤幸兵衛が山口において他県からの来訪者を饗応するための料亭としておよそ 50 年前に営まれ、外務大臣井上馨によって菜香亭と命名されました。平成 16 年 (2004)10 月に現在地に移築され、山口市を代表する文化施設の一つになっています。

記

■日程

令和元年 11 月 2 日 (土)、3 日 (日)

■会場

山口市菜香亭会議室
(〒753-0091 山口市天花1-2-7)

■会場への連絡先

TEL : 083-934-3312 FAX : 083-934-3360
E-mail : saikou@c-able.ne.jp

■山口市菜香亭への地図 (同ホームページより転載)



自動車 / 山口駅より約 7 分 (国道 9 号沿い七尾山トンネル横)

路線バス / 野田学園前バス停下車 (徒歩 2 分)

コミュニティバス / 野田バス停下車 (徒歩 3 分)

J R / 山口駅下車 (バス及びタクシー)

第1日目【11/2(土)】現地検討会

会場 山口市菜香亭

【JR / 山口駅下車

(各自バスまたはタクシーでお集まりください)】

- 9:40 受付開始
- 10:00 現地検討会事前解説
解説：佐藤 力 氏 / 山口市教育委員会文化財保護課
- 11:30 各自昼食
- 12:50 山口市菜香亭出発
※貸切バスにて移動(10分)
- 13:00 常栄寺庭園 見学開始
- 14:20 常栄寺庭園 見学終了
※貸切バスにて移動(60分)
- 15:20 常德寺庭園 見学開始
- 16:00 常德寺庭園 見学終了
※貸切バスにて移動(60分)
- 17:00 JR山口駅または湯田温泉バス停付近、解散
湯田温泉街 自由散策
- 18:00 情報交換会「泰人」(たいんちゅ)
山口市湯田温泉 1-11-13
電話：083-923-3689



山水園庭園

第2日目【11/3(日)】研究発表会/現地検討会

会場 山口市菜香亭会議室

【JR / 山口駅下車 (バスまたはタクシー)】

- 9:40 ~ 11:20 研究発表会
- 11:20 ~ 12:50 各自昼食
- 12:50 山口市菜香亭出発
※貸切バスにて移動(10分)
- 13:00 大内氏館跡南東庭園・北西庭園 見学開始
- 14:20 大内氏館跡庭園 見学終了
※貸切バスにて移動(10分)
- 14:30 山水園庭園 見学開始
- 15:20 山水園庭園 見学終了
※貸切バスにて移動(20分)
- 15:40 凌雲寺跡 見学開始
- 16:30 凌雲寺跡 見学終了
※貸切バスにて移動(30分)
- 17:00 湯田温泉バス停付近またはJR新山口駅、解散

大会参加費(2日間共通：研究発表会、資料代含む)

：会員 1,500 円 (学生会員 500 円) 非会員 2,000 円

現地検討会参加費(貸切バス利用)

：1 日目 3,000 円、2 日目 3,000 円

★貸し切りバス未利用者は 1 日目 1,000 円、2 日目 1,000 円

情報交換会参加費(実費予価)：5,000 円

【関西大会への申し込み】

申し込みの受付は締め切りました。当日、貸切バスの席に余裕があれば先着順で受け付けます。席がない場合は、各自タクシーなどをご利用ください。

令和元年度 日本庭園学会関西大会研究発表会プログラム

9:40 開会あいさつ

9:45～10:05

発表① 国土交通省ガーデンツーリズムにみる日本庭園
観光の課題と展望

小野健吉（和歌山大学観光学部）

国土交通省は、令和元年度（2019年度）からガーデンツーリズムの推進を掲げ、庭園間交流連携促進計画登録制度を創設した。第1回の登録計画となったのは、「北海道ガーデン街道」など6件で、うち日本庭園を中心としたものは、「富士・箱根・伊豆「皇室ゆかりの庭園」ツーリズム」と「にいがた庭園街道」の2件である。本稿では、おもに「にいがた庭園街道」を事例としながら、日本庭園を対象とした観光の課題と展望を示す。

10:05～10:25

発表② 旧芝離宮恩賜庭園を舞台としたエリアマネジメント・
イベント

菊池正芳

（公益財団法人東京都公園協会公園事業部）

旧芝離宮恩賜庭園の周辺は大規模都市再開発が施工中であるが、再開発デベロッパーは、そこに住む人々の街づくりに向けたエリアマネジメント組織の立ち上げと運営が開発条件となっている。エリアマネジメント組織は、開発の中心部にある旧芝離宮庭園を核とした活動を考えており、昨年からはライトアップ事業が展開されている。都市に孤立した文化財庭園の今後の地域との関連性のあり方についての事例を紹介する。

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしく願います。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしく願います。

協力者：森本純代、小椋菜美（植彌加藤造園株式会社）

10:30～11:00

発表③ 社会構築主義によるアプローチ(2)；勅撰八代集の
中の「庭」

森泰規（株式会社博報堂）

古今集に始まり新古今集にいたる勅撰和歌集、いわゆる「勅撰八代集」は当時の美の規範を定めるために行われた編集作業の成果である。その中に「庭」がどのように描かれるか、あるいは意図して描かれていないかを検証する。

11:00～11:20

発表④ 境内の焼亡後による再建に伴って庭が拠り所と
なった可能性

今江秀史（京都市文化財保護課）

京都では、千二百年以上において数多くの寺院境内が築かれてきた。その歴史の中では、不幸にも焼亡して廃絶したのもあれば、同じ土地で復興を果たしたのも少なくない。再建された寺院のうち、等持院と壬生寺では、元からあった庭が火災から免れたとみられる。それらの現況と旧状を絵図などで比較すると、新しく境内が構成される際に、庭が拠り所となった可能性があることを検証する。

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都造形芸術大学日本庭園研究センター 4階

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342